

JICA札幌

札幌市白石区本通16丁目南4番25号

JICA札幌夏祭り 7月17日(土)

札幌の夏を楽しんでもらおうとJICA札幌国際センターが開催する恒例の行事で、JICA研修員、JICA札幌ボランティア、地元市民などが参加し、風船をねじって形をつくるバルーンアートや、綿あめ、かき氷、盆踊りなどで「日本の夏」を体験した。

盆踊りは研修員、地域の子どもたちがチームを組んで、工夫を凝らした仮装で会場を練り歩いた。地域代表や研修員代表のラフィックさん(バングラデッシュ)等がつとめた審査員から仮装チームの入賞発表でフィナーレを飾った。



研修員と子供たちのチームによる仮装

JICA帯広

帯広市西20条南6丁目1番地2

世界の友達2004 7月4日(日)

帯広・十勝に暮らす外国人と日本人に国際交流と国際協力に対する理解を深めてもらおうと「世界のともだち2004」実行委員会がJICA帯広、北方圏センター帯広国際センター、帯広市、十勝インターナショナル協会、JICEと共に実施した。

JICA研修員や留学生などが各国料理の屋台を出店、美味しいと値段も安いと大人気であった。会場の帯広国際センターや森の交流館・十勝には文化紹介、歌や踊りのステージ、フェアトレードのコーナーなどが設けられて異文化を楽しむ人々で一日賑わった。



サマーガーデンで輪になってダンスを楽しむ参加者たち

第2回国連軍縮札幌会議「国連ジュニア・プログラム」

”世界がもし100人の村だったら（平和編）”をもとにワークショップ

世界を人口100人の村に置き換えた「世界がもし100人の村だったら」の話をもとに世界の現状に目を向けようと、ワークショップが開催された。7月26日～29日まで札幌市で開催された国連軍縮会議の一般向けプログラムの中のジュニア・プログラムで、申し込みをした小学2年生からアシスタントの高校生まで約40名が人口構成、人種や文化、富の偏在、戦争などについて学び合った。

ワークショップは北方圏センター国際協力部大川主任がファシリテーターをつとめ、冒頭、歌に合わせて手や身体を動かして緊張を解きほぐしてスタートした。



ひとりずつに内容の異なるカードが渡されて、性別、年齢、話している言語、地域など同じ仲間同士で集まるゲーム形式で地球上でそれぞれがどのように分布しているのかを具体的に体験したり、配られたクッキーの枚数に金持ちの国と貧しい国の大差に驚きながらも「このままではイヤ」と少ないグループと分け合って食べたりした。

2時間のワークショップを終えて、「いつもは平和について考えたりすることがないので今日いろいろ考えることができて良かった」、「みんなが世界が良くなつて欲しいと願えば平和は実現できると思った」などの感想を発表した。当日は教員を対象にした「軍縮教育セミナー」も開催された。

